

『現代女性とキャリア』第3号刊行によせて

現代女性キャリア研究所長
岩田正美

2011年3月11日午後、本研究所では丁度プロジェクト会議が開かれていた。大きな揺れに一同驚いて机の下に潜り込んだ。その後も繰り返し続く余震の中で様子を見ているうちに、JRをはじめ鉄道が運行をやめたとの報道で、結局メンバーの何人かとスタッフは帰宅をあきらめ、研究所で夜を明かすことになった。目白通りは徒歩で帰宅する人で混雑し、車ものろのろとしか進めない。それでも、翌朝には帰宅が可能となったのだから、むろん東京の被害などはたいしたことではなかった。津波や原発によって命や生活を理不尽に奪われた人々や地域の惨状は、言葉に尽くせない。それらの地域にあっては、未だ「復興」の2文字は遠いことであろう。研究所としてもささやかなボランティアに協力し、また本年度のシンポジウムには被災地の女性たちの仕事や自立問題を取り上げる予定である。

このような年度末ではあったが、研究所では開所年に採択された文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「女性の多様なキャリア開発の為に基礎的研究―「女性とキャリア・アーカイブ」構築にむけて」が3年の研究期間を終え、そのとりまとめを行うことができた。この成果は報告書としてまとめたほか、本号にもいくつかの論文を載せている。

また幸いなことに同じ事業の2011年度から5年間にわたるプロジェクト「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」が新たに採択され、新年度からはこの研究へ着手している。新事業では、キャリア・アーカイブの拡大のほか、リカレント教育課程や教職教育開発センターとの協力で行う大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究を計画している。これらの研究のため、客員研究員やRAの数も増え、研究所はますます活気に満ちてきた。

このようなプロジェクト研究の進展に呼応して、本紀要も女性とキャリアについての内外の研究と情報の交差点となるべく検討してきた。その一つとして次号から投稿論文（査読付き）の掲載を予定している。本号にその要領を載せたので、ふるって研究論文をお寄せいただきたい。また公刊時期をなるべく固定できるような体制についても検討中である。